

◆オニビートル◆

「あは♡ おじさんのおちんぼミルクびゅくびゅく出てる♡
やあ♡♡ 孕んじゃう♡♡」

ひとりのおじさんがオニビートルという人外娘に頭から食べられて
しまいました。オニビートルは残った下半身に付いているちんぽを弄って
遊んでいます。生物的な本能で種を残そうと精子を漏らす
おじさんがとても可笑しくて仕方ありません



「ん♡ おじさんの体液も出て来たあ♡ 美味し♡」

啜えられた上半身が溶けて、溶けた体液がちんぽから漏れ出てきました。おじさんの体液とザーメンが混じったカクテルでオニビートルはとても嬉しそうです。腰を振るともう死んでいるのにビクンビクンと射精するのが、また笑いを誘います



「あゝん♥ すこおゝい♥ おじさんつて死んでもちんぽ汁を出し
しちやう本当の変態さんなんだね♥ あははははは♥」

おじさんは病気に罹った我が子を治す為の薬代を求めて、
このダンジョンに足を踏み入れました。それがこの結末とはあまりに
救われません。おじさんの子供もやがて病気で後を追うでしょう。
しかしそんな事はオニビートルにとつて知った事ではありません。
むしろ逆です



「はぁい♡ 下半身もぜえくんぶ食べちゃったから♡
このままぜえくんぶ溶けちゃいましょね♡」

おじさんの事情は捕食前の命乞いで聞いていました。が、
それはとても面白そうだと思ったのです。遊んでいたちんぽは
もう飽きたので、全部その腹の中に納め、咀嚼しながらその面白そうと
思った事をオニビートルは思い返します



「あはあ♥ あの世で後追いして来た自分の子にいい、
自分は気持ち良くて死にました。って言うてね。♥ あはははは♥」

父親がいなくなり、心細い思いしながら、病気で苦しんで死んだ
おじさんの子が、あの世でとおじさんと再会した時。そのおじさんは
ちんぽを弄られながら、みともなく漏らし散らして気持ち良くて
満足して死んだ事を知った時、その子はどう思うのか？
おじさんはどんな蔑んだ目で見られるのか、そう考えただけで
オニビートルはとても愉快でたまらなかったのです。まさに鬼でした

END



◆スライムガール◆

ひとりの冒険者がスライムガールという粘性のモンスターに犯されています。どうやら駆け出しで、しかもその中でも弱かった彼はスライムにすら勝てなかったようです。

「あはははははは♡ ほらほらちゃんと我慢しなきゃダメだよ♡
もし射精したらそのまま溶かして食べちゃうからね♡」

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

「あん♡ ザコちんぽからザコセーシ、きたあ♡」

びん♡ びん♡

びん♡

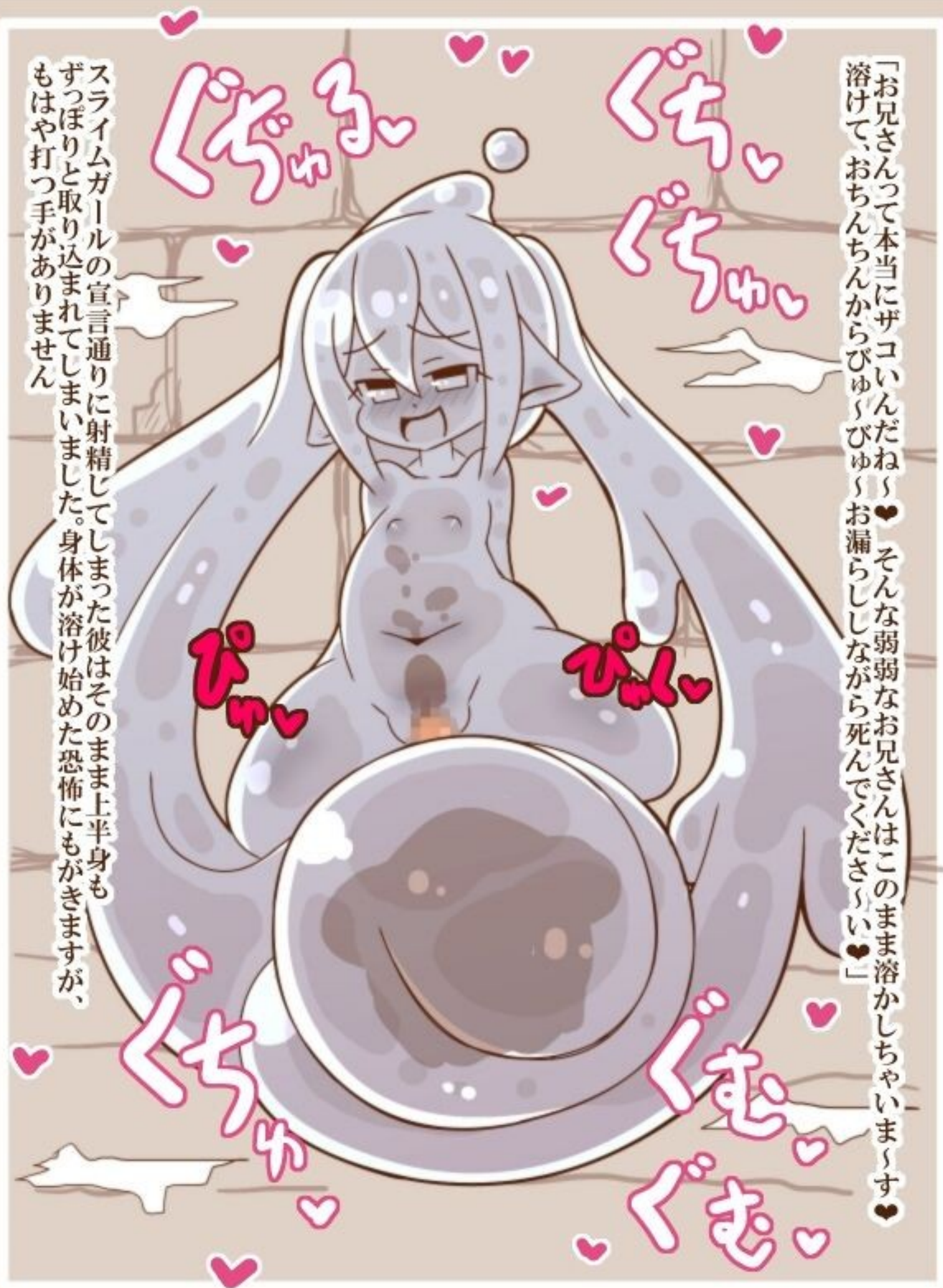
びん♡ びん♡

どうやら駆け出しの彼はあつちの方も弱かったようです。スライムガールの体内でおちんちんを揉みくちやにされた彼は、あつという間に果てて、中に射精してしまいました。外からでも彼の敗北の証がハッキリと見えます



「お兄さんって本当にザコいんだね♡ そんな弱弱なお兄さんはこのまま溶かしちゃいます♡
溶けて、おちんちんからびゅーびゅーお漏らししながら死んでくださーい♡」

スライムガールの宣言通りに射精してしまった彼はそのまま上半身も
ずっぽりと取り込まれてしまいました。身体が溶け始めた恐怖にもがきますが、
もはや打つ手がありません



「んふふ♥ ザコお兄さん処刑完了〜♥
溶けておちんちんからびゆくびゆく漏らして、かつこ悪い♥」

駆け出し冒険者はこうしてぐちゅぐちゅに溶かされてしまいました。
その溶けた体液をおちんちんからお腹に吸い上げたスライムガールは、
とても嬉しそうです

END

◆ドラゴン◆

「あは♡ お兄ちゃん頑張れ頑張れ♡
漏らしたらそのまま食べちゃうぞ♪」

ひとりの男がドラゴン相手に情けなく腰をへこへこ振っていました。
男は駆け出しの冒険者で、ドラゴンスレイヤーを夢見て挑んだものの、
駆け出しが持つている様な只の鉄の剣では傷つける事もできず、
こうしてドラゴンの暇潰しの玩具として必死に腰を振っているのです。
決められた時間まで腰を振って耐えられたら生かして帰してあげると…



「ん♡…あゝあ、漏らしちゃったね♡
気持ち良かった？」

そんな約束、端からドラゴンは守る気は
ありませんでした。

ちよつと膣内を絞めたらあつという間に漏らしてしまう、
その情けない姿がドラゴンの嗜虐心を煽ると同時に、
こんなひ弱な人間の男に眠りを邪魔されたかと思うと、
少し腹も立ちます。だからこの男でちよつと遊んでやろうと思ったのです



「じゃあお兄ちゃんを食べちゃうね♡
私のおまんこでいったっきまゝす♡」

男はそのまま精子を漏らしたドラゴンのおまんこにばつくりと
食べられてしまいました。

片手だけおまんこの口のフチに捕まって必死に抜け出そうとするのですが、
まるでびくともしません。ドラゴンはんは必至な男の姿が可笑しくて、
臍内で男を咀嚼します。臍内に消化液が分泌され始めて、
ひだひだで溶かされながら男は全身を扱かれ、そして…



「あは♥ 死んだ♥ ご馳走様♥」

そのまま漏らした精子と混ざりあつて男は死んでしまいました。
これが駆け出しの男が無謀にもドラゴンに挑んだ末路です。



膣内の動きがあまりに激しくて、男の成れの果てがドラゴンの
おまんこから勢いよく噴き出してしまいました。
それがまた可笑しくてドラゴンは少しは気が晴れたようです。END

◆ホルスタイン◆

「お姉さんのおっぱい美味しい？ いっぱい飲んでいいからね」
ダンジョンの薄暗い通路の三角で、男の子がある人外娘の大きなおっぱいに顔を埋めて無心に吸っていました。その人外娘の大きな『ホルスタイン』その大きなおっぱいから垂れるミルクで男を虜にしてしまう半人半牛のモンスターです



「そう…、もっと吸って…、良いからね…あ♥ あん♥」
ホルスタインは男を見つけると自分で乳を搾ってミルクを
飛ばしてきます。そのミルクに掛かったり、辺りがミルクの甘い匂いが
充満すると、男は頭をやられてしまい、ホルスタインのおっぱいを
むしゃぶる事しか考えられなくなってしまうのです



「ん…♡ 代わりに…、坊やのミルク…、ちょうだい」

そうやっておっぱいミルクで虜にした男を、ホルスタインは搾精器官である尻尾を使って男のおちんぼミルクを搾るのです。男の子はホルスタインの甘い甘いミルクを飲みながら、そのまま尻尾の中に漏らしてしまいました



「ん♥ 美味しい♥ 坊やのミルク…もつと♥」

男の子はこのダンジョンに行つて行方不明となつた父親を捜しに足を踏み入れました。しかし、こうしてホルスタインのミルクを掛けられて虜となつた男の子は、そんな事はすっかり忘れて、ホルスタインのおっぱいに夢中にしゃぶり付いたままです。



「そう、もつと、もつと坊やのミルク…、漏らして♡ 漏らして♡」
男の子も父親と同じ運命を辿るでしょう。このダンジョンに
足を踏み入れて帰って来ないというのは、そういう事なのです。
男の子はこのまま夢心地のまま、ホルスタインの乳に埋もれ、
吐精し、緩やかに死んでしまいました。END



◆ラミア◆

ひとりの男の子が下半身が蛇で上半身が人間の女のモンスター、
ラミアに捕まって犯されています。軽い冒険心のつもりだったのですが、
その好奇心と軽率と無知が命取りです

「こんな所に来るなんて坊やは悪い子ですね〜♪
そんな悪い子は食べられても仕方ないんですよ〜♥」



ラミアに捕まり、ギョツとホールドされながら犯されて、
性経験がなかった男の子はもうたまりません。
蛇は獲物の体温を感知する能力があります。
暗く、肌寒いダンジョン内で体温が高い男の子はさぞ発見し易かったでしょう

「ほらほらほらあゝ♡
お姉さんの中に坊やの出しちゃえ、出しちゃえ♡」



体温が低いラミアにとって、男の子が膣内で漏らした精子はとても熱く、そして心地よいものでした。男の子も女の子の人の特有の柔らかさと甘い匂いの中の吐精は、頭がくらくらするほどの甘美な快感でした



「あん♡でたあ♡…あつうい♡」

男の子の体は脱力し、ラミアの搾精にその身を委ねてしまいました。
そしてそのまま搾られ続けられ、男の子は悦楽の中で果ててしまいました。

「ほらあ♥ 坊やの全部お姉さんの中にちようだあい♥
このまま搾り殺してあげるう♥」

END

◆わーウルフ◆

「ほらほらおじさ〜ん♥ 観念して出しちゃえ♥ 出しちゃえ〜♥」

ダンジョンに挑んだ冒険者の男は『わーウルフ』というモンスター娘に敗北し、そのまま押し倒され、こうして犯されてしまいました。激しくその桃の様な大きな尻を打ち付けてくるので、男はもうたまりません



「あ♥ 出たあ♥」

あつという間に敗北し、その膣内に子種を吐き出してしまいました。
それでもわーウルフには容赦などありません。
一滴残らず搾り取ろうと腰を振って、尻を叩きつけ、
男のちんぽを責め立てます



「ほらあゝ♥ もつとおゝ♥ もつとちよゝだあゝい♥
このまま孕ませてえゝ♥」

わーウルフはとても本能が強い獣のモンスターです。

生物の本能である生殖を確実にする為に、
男が死ぬまで搾り取ろうとするし、そして死んだら腹の子の栄養として、
そのまま食べてしまうのです。この冒険者の男も他の例に漏れず
このまま搾り殺されて、わーウルフの腹に納まつてしまうでしょう



「あん♥ そーそー♥ このまま子種を出し続けて死んじゃおうね♥」
そうと解つていても冒険者の男は漏らすのを止められませんが、
生殖本能が強いわーウルフですが、人間の男もけつきよく
雄としての本能、女のまんこにチンコを挿入されたら
精子を出してしまう本能には勝てないのです。

END



◆蛭姫◆

ひとりの男が女の後ろからその肉棒で突いています。その女は『蛭姫』という人外娘で、後ろからされるのが好きだから、返り討ちにした冒険者の男を使って遊んでいました。男は僅かでも命を伸ばす為に必至に腰を振ります。

「ほらあゝ♥ 突いてえゝ、私を滅茶苦茶にしてえゝ♥」「ああゝ、クソ！ クソクソっ！」

もみもみ♥

ぐぢゅ♥
ぐぢゅ♥

ぎゅ♥

ぱん♥
ぱん♥
ぱん♥



「う、お／＼ おおお／＼ やあん／＼
濃いの来たあ／＼」



男はとうとう漏らしてしまいます。モンスターを倒し、宝を得る冒険者がモンスターの腔内に
子種を吐き散らしてしまう屈辱と背徳がないまぜになって男は頭がどうにかなってしまいましたそうです

びん／＼

びん／＼

ぐん／＼

ぐん／＼

ぐん／＼

「ほらあく♥ このまま私とひとつになろう? とつても気持ち良いよ♥」「んんん!」

蛭姫はそのまま男を頭から生えている捕食器官で丸呑みにしてしまいました。逃げ出そうにも男はその捕食器官に拘束されている為、繋がったまま吐精したまま成す術も無く食べられてしまったのです



「うっつ♡」
「ああうん♡ きてえええー♡ 私の子宮に入ってきてきてえええー♡」

捕食器官の中で溶かされた男は、そのまま蛭姫と繋がっているちんぽから体液を漏らし、びゅくん、びゅくんと子宮に入っていきます。蛭姫はこれが好きで、よく男を襲っては、溶かして、子宮で溶ろけた男を食べるのです。END



◆野良ゴーレム◆

ひとりの男の子が野良ゴーレムに襲われました。
どかそうにも岩石で出来ているゴーレムはとても重くどかせません。
そうこうしているうちに男の子のおちんちんが膣内に入れられてしまいました

ぬ
え
ん

「ど、どいてええー！ 放してええー！ ああゝ／＼」

の
し

ゴイレムの腹内は抑え込んだ男性から一方的にエネルギー源である精を搾り取る搾精器官でした。元は防犯の為に作られた泥人形は、捨てられ野良となり、そしてこのダンジョンで男を無差別に襲うモンスターとなってしまうのです

「あ、あひいいいいー♥ にや、にやにこれええー♥」



さつそく男の子は二発目を射精してしまいました。
碌に性経験が無い男の子にとって、男の清を搾る事に特化させた器官を持つ
ゴーレムの搾精行為にはとても耐えられなかったのです

「あああああああああああああー♥」

ぐちゃぐちゃ♥
ぐちゃぐちゃ♥
ぐちゃぐちゃ♥

びゅ♥
びゅ♥
びゅ♥

ぐちゃ♥
ぐちゃ♥
ぐちゃ♥

ド♥
ド♥
ド♥

ド♥
ド♥
ド♥

びゅ♥
びゅ♥
びゅ♥

びゅ♥
びゅ♥
びゅ♥

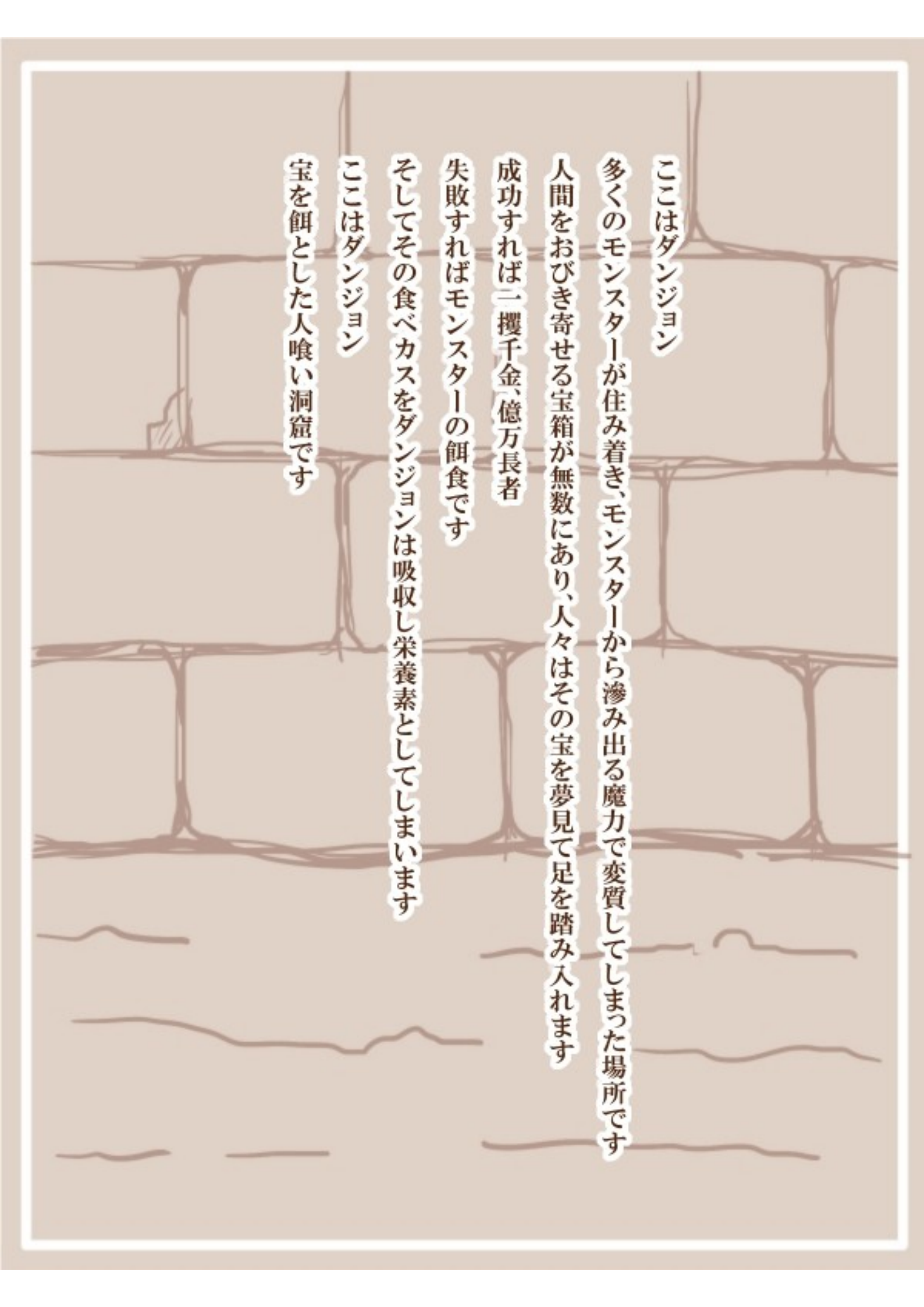
泣いても喚いても懇願しても野良ゴーレムの搾精行為は止まりません。
わずかにその体を揺らす野良ゴーレムですが、その体内の搾精器官は恐ろしいほどの速さで扱きまくりです

「りやめええええええええええええー♥」



END

「おこ♡ おこ♡ おおおお
おとおお おおご おおおおー♡」

The background is a light brown color with a faint, hand-drawn illustration of a stone wall and floor. The wall is composed of large, rectangular blocks with visible mortar lines. The floor is represented by several horizontal, wavy lines. The overall style is simple and sketchy.

ここはダンジョン

多くのモンスターが住み着き、モンスターから滲み出る魔力で変質してしまった場所です
人間をおびき寄せる宝箱が無数にあり、人々はその宝を夢見て足を踏み入れます
成功すれば二攫千金、億万長者

失敗すればモンスターの餌食です

そしてその食べカスをダンジョンは吸収し栄養素としてしまいます

ここはダンジョン

宝を餌とした人喰い洞窟です